

# 秋建時報

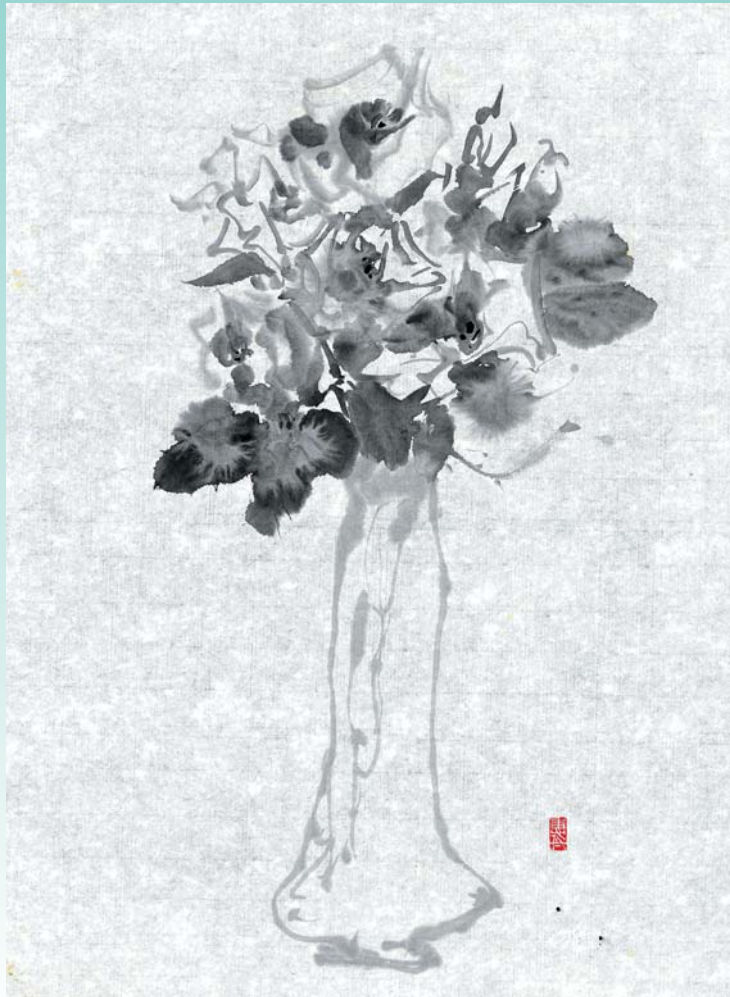
秋建時報

平成21年6月1日(第1182号)



発行／(社)秋田県建設業協会  
秋田市山王四丁目3番10号  
TEL 018(823)5495  
FAX 018(865)2306

<http://www.a-kenkyo.or.jp>



愛情がこもってあれば、一本の深紅の花が千万本にも値する。

【愛情】 絵・文：白澤 恵舟

## 源八翁筆塚

会長 菅原 三朗

我が郷土、潟上市昭和には偉大な先覚が二人いる。一人は県の農業行政に従事し、米質改良指導、種子交換会、現在の「秋田県種苗交換会」の創設者として知られるなど、多くの業績を残し「農聖」といわれた「石川理紀之助翁」（1845～1915）である。

もう一人の先覚は「菅原源八翁」（1794～1879）である。潟上市昭和久保新関の旧羽州街道添いに高さ約2.5メートルの石碑がたっており、市指定の文化財になっている。江戸末期に久保村で、現在の首長職に相当する肝煎であった、菅原源八翁の功績をたたえようと建立された「菅原源八翁筆塚」である。「翁の遺特は千年経っても忘れられることはないだろう」と言う文言が刻み込まれている。

源八翁は大久保新関地区の農家に生まれ、地区の長名役（副村長）だった父親の死去に伴って二十一歳で役職を継いでいる。特筆すべきは、翁四十一歳の天保四年（1833年）の「天保の大飢饉」の際、三百両を超す私財を投じて難民を救済したことである。翌1834年に秋田藩から名字帯刀を許され、佐竹の家紋入りの袴を贈られている。

源八翁は、1843年から56年まで肝煎として行政手腕を発揮する一方、独学で医学や華道・茶道・俳諧などを学び、住民の指導につとめた。袴をはじめ愛用の薬研、花器、その他の著作資料等は、昭和久保新関の湖南交流センターにある「菅原源八翁資料展示室」で見学することができる。

筆塚は源八翁を慕う子弟達が、翁存命中の1870年に建てたもの。名称は建立時に子弟達が使用していた筆を埋めたことに由来する。裏側には、子弟八十四人の名前と住所が刻まれており、昭和地区や

天王地区、秋田市、男鹿市などの地名も見られ、広く信望を集めていたことがうかがえる。

翁は肝煎の大役を解かれた後、元木村に別宅を設け「一松軒三石」と名付け、晴耕雨読の生活を始め「日ぐらし草紙」を手始めに数多くの随筆著作を残している。総じて内容は当人の体験や、折々の感想を綴ったもので、幕末から明治維新前後の急激に移り変わる世相に戸惑う民情の姿を、東北地方の一庶民の目線で鋭く捉えたもので、当時の世相をうかがい知る貴重な庶民生活の記録である。

同センター展示室には、石川理紀之助が源八翁の死後の1899年、その功績をたたえ贈った感謝状も展示している。しかし郷土の先覚である源八翁の知名度は石川翁に及ばず、筆塚や資料展示室を訪れる人も少ない。

地元の菅原源八翁顕彰会では、会の活動を通じ源八翁の功績をもっと広く県民や市民に知ってもらいたいと願っている。

## 表彰式・第77回定時総会

### 21年度事業計画を承認

県協会は5月27日（水）、秋田キャッスルホテルにおいて表彰式並びに第77回定時総会を開催した。

総会に先立って行われた平成21年度表彰式では、(社)秋田県建設業協会表彰において会員企業14社、会員企業の従業員25名、事務局職員2名を表彰。(社)全国建設業協会表彰では企業役員の特功功勞として5名、事務局職員1名、会員企業2社、そして、会員企業の従業員8名が受賞し、表彰状・記念品が伝達された。

第77回定時総会は表彰式に続いて開催、会員112名が出席。来賓には岡田光彦東北地方整備局局長、加藤修平秋田県建設交通部長が出席。

菅原会長は冒頭のあいさつで、「県内建設業の窮状の改善、安全・安心な県民生活を維持するため、公共事業予算の確保について総力を挙げて関係機関に強く働きかけていく」と述べ、「会員相互の信頼や連携を強め、結集力・組織力により諸問題の解

決に向かわなければならない」と、協会事業に対する会員の協力と理解を求めた。

議事では▽平成20年度事業報告並びに収支決算を承認、▽平成21年度事業計画並びに収支予算（案）を決定。

21年度の事業計画では、▽安全・安心確

保のための社会資本整備の計画的推進▽建設業のコンプライアンスの徹底と企業の社会的責任（CSR）への対応▽公益制度法人制度改革への適切な対応を始めとした6項目の重点事項を決定した。



## 新規学卒者研修会を開催

### 建設業界と社会人としての基礎知識 建設業のIT化等を学習

県協会は、平成21年度新規学卒入職者（新入社員）研修会を4月27日・28日の二日間にわたり、秋田ビューホテルにおいて開催した。研修会には、この春会員企業に採用された新入社員20人が参加。初めに菅原会長の講話があり「研修会は毎年継続して開催されているが、参

加者の多い少ないで我々の業界の景気がわかる。ピーク時は170人の採用があったが、今年の参加者は昨年の10名から20名と倍増しており、業界低迷の底が見えてきたのではないかと思います。今、建設業（公共事業）は高齢化している。国県市町村で管理している橋や建物が老朽

化している。メンテナンスしていかないといけない時代へとってきている。日陰者と批難されてきた建設業も品確法の理解等により明るさが見えてきた。これからは整備されたストックのメンテナンスを基盤としてやっていくことになるが、決して衰退する産業ではない。業界の倫理として、地震、台風、大雨に対してすべてをなげうって市民住民の財産を守るのが責任でありキチンをやっているのが建設業である。皆さんも建設業の実態を理解し、プライドと希望を持ってやっていただきたい」と激励。

引き続き、研修では（株）日本コンサルタントグループの酒井誠一氏を講師に迎え、社会人としての心構え、建設業界の基礎知識、新入社員の基本（身だしなみ、挨拶、敬語の使い方、電話対応）、また午後からはグループに分かれ、建設業界の仕事の流れについて設計図や見積書、工程表の作成、安全管理、施工検査など与えられた役割についての責任と協力して仕事を組み立てていくことについてゲーム形式で学んだ。

二日目は電子申請センター秋田の渡邊伸也リーダーを講師に、建設業界のIT化、秋田県CALS/ECの動向、業務の流れと電子化への対応について講義。併せて、Windowsの基本操作実習が行われた。



# 秋田水風景

文と写真／加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター  
取材・執筆歴／旅の手帖、WoodyLife、ベンチャー・リンク、郷、あるる他  
海外取材歴／ドイツ、アメリカ、ブラジル  
写真塾・写楽 主宰／写真教室、撮影ツアー企画等

Vol.2

## 滝の頭

【たきのかしら】

男鹿市・寒風山北東麓



美味しいことで定評のある秋田米だが、その同じ秋田米でも都会で食べると秋田で食べたときほどの美味しさを実感できないことがあるという。その違いはどこからくるのかというと、どうやら「水」にあるようだ。

都会に比べて、秋田の水道水はそのまま飲んでもおおむね美味しい。美味しい米を美味しい水で炊けば、美味しいご飯になるのは当然の理屈といえる。

水道水ですら美味しいのに、さらに美味しい水がコンコンと湧き出ている湧水スポットが秋田には随所にある。男鹿半島は寒風山の腹に湧く「滝の頭」もその一つ。男鹿市の水道の水源にもなっている「滝の頭」には、道路沿いに無料の水汲み場がある。この水を使うとご飯やお茶、それに焼酎やウイスキーの水割りがたいそう美味しいということで、クチコミで評判になって遠方からもポリタン

クやペットボトル持参で水汲みの人が大勢やってくる。

管理事務所の許可を得て水道施設敷地を奥に進むと、エメラルドグリーンの水をたたえた神秘的な「森の泉」が現われ、その先では、苔むした岩場のあちこちからドウドウと伏流水が溢れ出している。長い年月をかけて寒風山が貯えた水だ。その湧出量は一日あたり2万5千トンにも及ぶとか。寒風山は中腹以上はほとんど樹木を見ない芝で覆われた山容だ。その寒風山にこれほどの保水力があったのかということにまず驚かされる。

眺望が優れていることで男鹿の代表的な観光スポットになっている寒風山だが、そこは珠玉の水を生み出す「天然地下貯水池」でもあった。こんな贅沢な水を生活に使える地域の人たちが羨ましい。男鹿方面にドライブする折には、容器持参でぜひお裾分けに預かりたいものだ。

## 建退共秋田県支部Q & A

### 「退職金請求について」

**Q** 退職金が支払われるまでどれくらいかかるか。

**A** 請求から1カ月～1カ月半かかります。

(説明)

退職金は月2回（月半ばと月末）に支払っております。月半ばとはおおよそ16日、月末は最後の日ですが土・日曜や祝・祭日の関係で支払日がずれることがあります。

退職金の請求書は秋田県支部で取りまとめ、建退共事業本部（以下本部）に送付し本部はそれを審査した後、事務委託会社を送り退職金計算等を行い、本部で再度確認作業を行っているため、退職金は請求から支払いまで1カ月ないし1カ月半の日数が必要としております。

**Q** 退職したが手帳がもらえない。

**A** まず、事業主に申し出て下さい。それでももらえない場合には建退共秋田県支部又は建退共事業本部に相談して下さい。

(説明)

手帳は原則として、被共済者本人が持っていて、賃金の支払日ごとに、それを契約者に提出して証紙を貼ってもらうことになっております。

手帳は全国どこでも使えますので、被共済者が現在の事業主のところをやめるときには、必ず手帳を受け取り、再就職した場合には新しい勤め先の事業主に提出して証紙を貼ってもらうこととなります。

建退共事業本部又は秋田県支部では事業主に対し、退職した従業員には必ず手帳を渡すよう指導しているところです。

事業主に手帳を渡してもらえない場合は秋田県支部又は事業本部に申し出て下さい。

## (財)建設業福祉共済団から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

## 情報コラム Vol.29

### SAFETY 2009

「安全に関する体験・提案文」を募集します

例年開催されている東北地方工事安全施工推進大会（SAFETY）が平成21年度は11月11日開催の予定となっております。

同大会の開催に当たって、東北地方の公共工事に関わる企業の社員およびその家族を対象に、工事の安全に関する体験や提案、安全に関する作文を募集いたします。

なお、応募された中で優秀な作品については、表彰状、記念品が贈呈されることとなっております。

応募要領は本会ホームページに掲載（6月10日付けトピックス）しておりますので、ご覧の上、応募下さいませようご案内申し上げます。

# 「日本国」に 日本の原風景を見た

藤原優太郎

山形県温海町と新潟県村上市（旧山北町）の境に「日本国」という小さな山がある。標高は555メートル。この山のふもとを出羽街道と呼ばれる旧街道が通っている。ここは出羽への街道であると同時に越後に通じる道なので越後街道ともいえる。

庄内からの浜街道（国道7号）と並行しながら山の中を通る旧街道は山間部に小国という山里があることから小国街道、庄内藩ではこの海辺の道、と山の道合わせて山浜街道と呼んでいた。

この山中の小国街道（現国道345号）は鶴岡城下から湯田川や木野俣、関川など山間の小さな山里を縫いながら進み、国境（くにぎかい）の堀切峠を越え村上領の岩船郡小俣という村に通じている。

「日本国」という国境（くにぎかい）の名にはどこやら魅力的な言葉の響きがあって、時々、この山の街道を通ってみたいくなる。道中には、鬼坂峠をはじめ、楠峠、一本木峠、角間台峠、関川峠、雷峠などがあり、これらの坂道がかもし出す旧街道の雰囲気たまらなくいい。

かつての領境は今、山形と新潟の県境となっている堀切峠で結ばれている。峠のふもとには庄内側の小名部、越後側の小俣という、まるで日本の原風景を見るような美しい山里がひっそりたたずんでいる。日本国という山の名に惹かれるハイカーも多く、とくに早春から新緑の季節など隠れた人気を集めている。



日本国へは片道1時間半ほどで登れるが、ブナの森の中にユキツバキの群落などがあって自然指向派に好まれている。555メートルという高さから小俣の里では毎年5月5日に555人で日本国に登るイベントを開催し、山菜料理やソバなどのご馳走をふるまっている。名物料理と言えば、温海は赤カブが有名だが、このあたりまでも山の斜面で焼畑のカブ栽培が盛んなようだ。

ところで、「日本国」というなんとも大胆な山の名はどのような由来を持っているのだろうか、誰もが興味を抱くはずだし、自分もその一人である。

時は6世紀の後半までさかのぼる。実際の日本国家は大化の改新から律令国家へ、奈良、平安へと時代が移行した。崇峻天皇（587～92位）の第一皇子であった蜂子皇子は対立した蘇我馬子らの陰謀から逃れて出羽の国、羽黒山に落ち延びた。それが歴史の定説である。この逃避行には皇子の従兄弟にあたる聖徳太子も力を貸したといい、羽黒山の出羽神社境内には今も蜂子皇子の墓がある。

蜂子皇子が出羽で過ごした晩年、この山に登り、都である飛鳥の方角を眺め、「これより彼方は日本国」と仰せられたという。以来、この山を「日本国」と呼ぶようになったとか。

また、小俣から日本国に登ると、山頂まであと少しというところに、「鷹待場」という場所がある。ここでは弓矢用の羽根を捕る鷹が多く捕れたことが藩政期の記録にも残されているという。この地の鷹を時の將軍に献上したところ、「この鷹の捕れたところを今後、日本国と名づけよ」といわれたという話もある。真偽のほどはともかく、いずれにしてもここが「日本国」であることに違いはない。

山麓の小名部と小俣は、戊辰戦争の激戦地となったところでもある。ここで血なまぐさい戦が展開されたとはとても想像しがたい。今ではどちらもほんとうに素朴で落ち着いた山里で、まるで時代の忘れ物のように、日本の原風景を見る思いがする。

小俣では出羽街道の宿場としての名残を留めようと、街道に面した各屋々の入口に「出羽街道〇〇家」と昔からの屋号を記した木札を掛けている。

村上藩に属した小俣は後に天領（幕府領）となって幕末を迎えているが、このような歴史街道は何度でも訪れたい日本国の一隅である。